

特集

戊辰戦争150年

世良修蔵暗殺事件の顛末

戊辰戦争とは、1868(慶応4、同年9月に明治に改元)年から1869(明治2)年にかけての旧幕府軍と明治新政府軍との戦いです。本市には、会津藩討伐のため、新政府軍の奥羽鎮撫総督府軍事局長楽寺(舟場町)に置かれました。その渦中で、下参謀の世良修蔵が殺害された事件は、戊辰戦争の戦火が東北に広がるきっかけとなりました。

今年(150周年)は、戊辰戦争から150年の節目の年で、市内でも記念事業を開催します。市内各地で戊辰戦争にまつわる講演をされている郷土史研究家の江代正一さんにお話を聞きました。



世良 修蔵
天保6年7月14日(新暦：1835年8月8日)
慶応4年閏4月20日(新暦：1868年6月10日)



①舟場町の長楽寺の本堂に
②世良が大山格之助に
あてた密書
③奥羽鎮撫
総督府下参謀世良修蔵(長
楽寺所蔵)



江代 正一さん
(郷土史研究家)

1868(慶応4)年1月3日、会津藩を含めた旧幕府軍と新政府軍(薩長軍)は、鳥羽伏見で交戦し、旧幕府軍を圧倒した新政府側は、徳川慶喜追討令を、また東北仙台藩に対して、会津藩征討を命じました。その会津征討を目的とする奥羽鎮撫総督府を仙台に設置し、下参謀に薩摩藩士大山格之助と長州藩士世良修蔵以下、世良が任命されました。その時の兵力は、奥羽鎮撫総督府総勢で630人という少数兵力でした。それは「会津藩征討を仙台藩を中心とした奥羽諸藩(仙台・秋田・福島など)の兵力で行わせようと考えていたからです。

世良たちは、仙台藩に対して、直ちの会津追討出兵を命令しました。しかし、会津藩を攻めたくない、攻める理由もない仙台藩では、強行姿勢を見せる新政府軍に大きな不信感を持ち始めます。また世良は、奥羽諸藩(仙台・米沢藩)による会津藩救済嘆願にも聞く耳を持たず「天地に入

るべからざる罪人」と言いつて、あくまでも武力での征討と強行姿勢を貫きました。

4月16日、福島に来た世良は、長楽寺を会津征討の軍事局と定め、宿を金沢屋にしました。4月19日、世良は新庄にいた下参謀の大山格之助に密書を書きました。その密書を福島藩士鈴木六太郎に託しましたが、これが仙台藩士瀬上主膳に渡り、主膳は激高します。その密書には、「奥羽皆敵と見て武力をもって一挙に討伐する」と記されていたのです。前日の18日に仙台藩は、世良の圧力により攻め入る理由もないまま、兵を土湯に進め、会津藩と小峠の戦いを交えていました。仙台藩は、会津征討を命じたという大きな態度に出た世良を憎む気持ちがあり、瀬上主膳が世良暗殺の実行を決意しました。

閏4月20日(新暦：6月10日)2時ごろ、金沢屋に宿泊していた世良と長州藩の勝見善太郎の2人は、仙台藩攻撃隊長姉齒武之進、福島藩士鈴木六太郎、浅草屋宇一郎らに表・裏口から襲撃されます。その後、瀬上主膳が泊まっていた客自軒に連行された2人は、尋問後、その日のうちに長楽寺裏側の阿武隈川の河原で斬首されました。

会津藩征討を目標としながらも新政府軍の兵力は非常に乏しく、仙台藩の地に入っても奥羽諸藩の動向が不安定な情勢でした。その中で下参謀としての責任感と、奥羽諸藩に対し弱みを見せてはいけないという焦りが世良に強行な手段・言動を取らせたのかもしれないと喜ばし暗殺の報告に、仙台藩士たちは大いに喜びました。その後、奥羽越列藩同盟が成立し、東北諸藩は新政府軍と戦争状態に入っていました。

「世良修蔵暗殺事件」の痕跡を歩く



①世良修蔵霊神碑
福島稲荷神社敷地の北東角にあります。この他に宮城県白石市陣場山に墓碑があり、山口県の周防大島町掠野に招魂碑があります。



- ②客自軒(旧紅葉館)
仙台藩士瀬上主膳らが宿泊。世良を襲撃後、連行し尋問した場所。現在は、解体し、民家園に移設・復原しています(写真は民家園内の元客自軒)。
- ③金沢屋跡
世良が宿泊していた宿で、襲撃され捕縛された場所。家屋は全て解体され、その面影はありませんが、現在の国道4号線北町交差点付近にあったとされています。
- ④長楽寺
仙台藩士による世良修蔵の暗殺の密議も行なわれたと伝えられる場所。世良の暗殺後、新政府軍を討つために奥羽越列藩同盟の軍事局が設置されました。
- ⑤世良修蔵処刑地
客自軒から連行された世良と、同行していた長州藩士勝見善太郎は、仙台藩士瀬上主膳らによって、この辺りで斬首されます。



戊辰戦争の際に、福島城下を戦火から救った森谷岩松

1842(天保13)年~1906(明治39)年

福島藩領であった黒岩村に生まれた森谷岩松は、26歳で戊辰戦争に直面しました。混乱する福島城下を戦火から救おうと、福島藩士とともに福島から二本松に潜行し、同地に駐留する総督府の板垣退助などと面会して福島藩の恭順の姿勢を示しました。武士だけでなく、民間人も故郷のために奔走したのです。

その後は、黒岩村の名主を務めたほか、自由民権運動に携わり、福島自由新聞の発行発起人に名を連ねました。また、県議会で県庁の郡山移転が議題になると、同志と諮り県令を説得し、内務卿にも掛け合って県庁移転を阻止しました。このような活躍から、没後に黒岩の満願寺に頌徳碑が建立され、現在にその功績を伝えています。

問/文化課525-3785

市内で「戊辰150年」記念イベントを開催

<p>展示「福島の戊辰戦争」 無料</p> <p>■とき/9月1日(土)~17日(月) 午前9時30分~午後4時</p> <p>■ところ/萬年山 長楽寺</p> <p>■内容/同寺・市所蔵資料を展示公開し、戊辰戦争にまつわる歴史を紹介。期間中には、特別講座や展示解説なども実施。詳しくは市政だより8月号をご覧ください。</p> <p>○特別講座 9月6日(木) (要申込) 午後1時30分</p> <p>○展示解説・長楽寺フィールドワーク (要申込) 9月10日(月) 午後1時30分</p> <p>■問/市史編纂室 ☎563-7862</p>	<p>西地区ふるさとの歴史再発見事業 「絹が鳴る」</p> <p>■とき/11月4日(日) ①午前10時30分 ②午後2時</p> <p>■ところ/民家園 旧広瀬座</p> <p>■料金/500円</p> <p>■内容/移築された客自軒の隣に建つ旧広瀬座で、「劇団120〇EN(120えん)」による福島の戊辰戦争をテーマにした演劇を行います。</p> <p>▲旧広瀬座</p> <p>申し込み方法は市政だより10月号に掲載します。</p>	<p>シンポジウム 無料 「戊辰から福島の近代を考える」</p> <p>■とき/11月9日(金)午後2時</p> <p>■ところ/こむこむ わいわいホール</p> <p>■内容/幕末史研究の第一人者である星亮一さんによる戊辰戦争に関する基調講演と関係者によるシンポジウムの二部構成で、戊辰以降の福島の県都としての立ち位置をたどります。</p>
---	--	--